

駒ヶ根市文化財

名称	駒ヶ根市の遺跡と考古資料
説明	<p>駒ヶ根市内には、中世の城館址を含め、現在 170 ヶ所あまりの遺跡(埋蔵文化財包蔵地)が登録されている。時代的には縄文時代が多く、中でも中期の遺跡がほとんどである。</p> <p>昭和 40 年代以降、ほ場整備事業や工場建設などに伴っての発掘調査が行われ、考古資料が増えてきている。</p> <p>駒ヶ根市立博物館で所蔵している資料の中心は、大城林遺跡(赤穂 南割)、丸山南遺跡、南原遺跡(赤穂上赤須)、原垣外遺跡(赤穂市場割)、辻沢南遺跡(赤穂福岡)、高見原遺跡、的場(まとば)・門前遺跡(中沢中割)、反目(そりめ)遺跡(東伊那栗林)、殿村遺跡・山田遺跡(東伊那伊那耕地)を始めとする縄文時代中期のものが中心であるが、外にも多くの好資料がある。</p> <p>縄文時代では、早期の養命酒工場用地内遺跡(赤穂福岡)、舟山遺跡(赤穂南割)、反目南遺跡(東伊那栗林)、早期末から前期初頭の殿村遺跡(東伊那伊那耕地)、前期末から中期初頭の羽場下遺跡(赤穂南割)、高見原横山B遺跡(中沢菅沼)、後期の青木北遺跡(東伊那火山)、晩期の荒神沢遺跡(赤穂小町屋)などがある。</p> <p>弥生時代では、大城林遺跡、反目遺跡、栗林神社東遺跡(東伊那栗林)、狐久保遺跡(東伊那伊那耕地)を挙げることができ、大城林遺跡の木棺墓から出土した土器群は、水稻耕作波及期の好資料とされている。</p> <p>市内に現存する古墳は、小鍛冶古墳群(赤穂下平)の4基のみである。中通り下古墳(赤穂上赤須)、丸塚古墳(赤穂小町屋)、古鍛冶古墳群から出土した刀剣類や土器がある。</p> <p>古墳時代から平安時代の集落遺跡としては、中通り下遺跡(赤穂上赤須)、原垣外遺跡、御射山遺跡(赤穂市場割)、反目南遺跡、反目遺跡、遊光遺跡(東伊那栗林)、殿村遺跡(東伊那伊那耕地)などがある。中通り下遺跡、反目南遺跡や遊光遺跡からは、上伊那地方でも古い時期に当たる古墳時代中期末から後期にかけての土器群が出土しており注目される。また反目南遺跡、反目遺跡からは、「礎石」を持った竪穴式住居祉が発見されており、大陸文化の影響を考える上で大変重要なものである。</p> <p>中通り下遺跡出土の「灰釉双耳壺(かいゆうそうじこ)」は平安時代の優品として、市有形文化財に指定されている。</p> <p>中世の遺跡は、城館址とその周辺である。</p>

駒ヶ根市文化財



縄文時代前期末(羽場下遺跡)



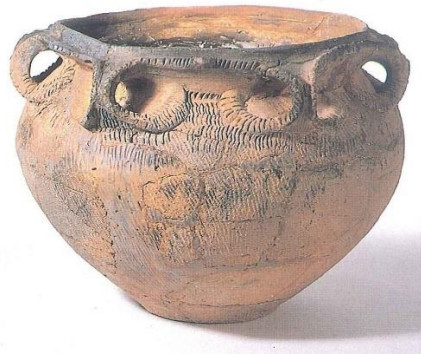
縄文時代中期(南原遺跡)



縄文時代中期(高見原遺跡)



縄文時代中期(反目遺跡)



縄文時代中期(の場・門前遺跡)



縄文時代中期(反目遺跡)



縄文時代中期(の場・門前遺跡)



縄文時代中期(辻沢南遺跡)

駒ヶ根市文化財



縄文時代中期の香炉型土器(市内各遺跡)



稲作波及期・弥生時代 大城林遺跡



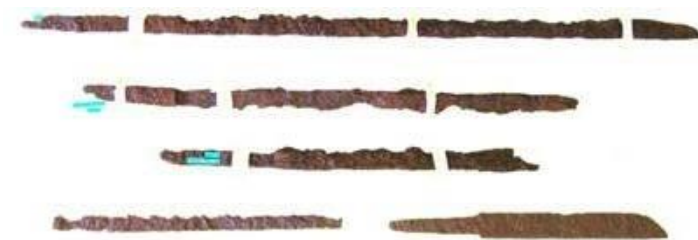
縄文時代中期(左 的場・門前、右 辻沢南遺跡)



古墳時代(中通り下古墳)



古墳時代(反目南遺跡)



古墳時代の刀剣類(小鍛冶古墳群)